



発行 子ども学習支援グループ須賀の寺子屋

不登校の子どもたちが増加していますが、その理由はさまざまです。

今号では、起立性調整障害という症状で学校にいけなかった卒業生に聞き取りをしています。

是非お読みください。(I.M)

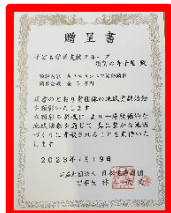


「生き生きシニア活動顕彰」贈呈式

この度、神奈川県推薦にて日本生命財団様より「生き生きシニア活動顕彰」をいただきました。7月19日県庁新館での贈呈式に大野と清田が出席しました。

今回贈呈されたのは県内で活動する6団体です。いずれもシニアが高齢者対象の活動を実践している中、子どもの学習や食支援を行うのは我々だけでした。

これも、日頃の支援員皆様の地道なご尽力があつてのことと感謝を申し上げます。



卒業生にインタビュー

皆さんは「起立性調節障害」という思春期に多い身体症状をご存知でしょうか。

寺子屋卒業生で、この症状により朝から登校できない日々を送って来たAさんに経験談を伺いました。

Q. いつ頃から不調を感じましたか

小学5年生から徐々に不登校になり、6年生ではほとんど登校していません。朝から登校できない生活になり、中学校卒業まで続きました。

Q. 症状が出てからの生活はどうしていましたか

学校のクラスにいと、(心身が)ザワザワすることが多くなり、それが苦手になって登校できなくなりました。長期休み(夏休み等)の後、学校へ行くことができませんでした。

自分自身、何ができて、何ができないのか? 根本原因にたどり着かない日々でした。その中でも、中学校の別室登校ができたことやスクールカウンセラーさんと話すことができたのは楽でした。

Q. 中学生の頃、嫌だったことはありますか

周囲の人から「なんで、どうして」という言葉を聞くのが苦手でした。それは自分自身でも答えがわからなかったからです。今考えれば心配して聞いてくれていたのだなと感じますが当時の私には余裕がなく、自分でも答えのわからない問いをなぜかけられたときに相手からの心配よりも戸惑いと怖さが真っ先に心に届いてしまっていました。

以前は、自分も当たり前ができていた方だったから、中学校は行かなければいけないと思っていました。他の人は出来ているのに、自分ができなくなったことが解ら

ない、自分との闘いでした。「しなければならぬ」が強かったのも、精神的な負担が大きかったのだと思います。

中学校の校長面接で、いろいろ聞かれて泣いちゃったこともあり。急に準備してなかったことを聞かれて困りました。当時の私は回避方法が解らなかったから…。パニックになった時に、どうすればいいのか対処法が今は解るようになりました。

お母さんとバトっていた(バトルしていた)頃、「行きたいの? 行きたくないの?」の言葉。親にしてみれば何をサポートすればいいのか分からなかったのだと思います。「どういうことが苦手なのか?」、自分を知ることが大切だと思います。私は病院に通い始めて医師と話しをしてから、ちょっとずつ変わって来ました。今でも苦手なことはあります。圧迫感のある満員電車や人混み、臭いも苦手です。でも、今は対処や回避ができるようになりました。

Q. 不登校の良かったこと

調理が楽しくなりました。一人でいる時に、考えながらできたことが良かったし、一人だからこそ楽しめました。失敗しても楽しかったです。

Q. 「くすのき*」での活動を教えてください(*平塚市子ども教育相談センター 適応指導教室)

中学2年生の10月から、中学卒業まで通いました。ゲームをしたり、他学年の子と交流したりできて楽しかったです。行ったことを肯定してくれる楽しい場所でした。

Q. 高校進学への悩みはありましたか

高校は、留年もあるし、単位を取らないといけないから、その先の進学はどうするのか等々、高校選びは難しかったです。中学校のサポートがあったから、いい学校が見つけれられたと思います。

Q. 現在の生活と高校生活

現在は、通信制高校へ通いながら、週3回午前中アルバイトをする日々を送っています。

現在の学校は、校則が緩く、毎日行かなければいけない学校ではないので、気持ちの負担がないです。いろいろな経験をしている子がいるので、お互い共感できる部分もあります。

Q. 高校へ入学してどうでしたか

始めは起きるのが大変でしたが、出来ることから始めようと思い、出やすい授業を選択する等、通いやすいように工夫しました。急には難しいので、週1回でも行けるようにして自己肯定感を付けるようにしました。

Q. 後輩や現在悩んでいる親子へメッセージ

行きたいけど行けない、人の視線が今までよりも気になる、緊張感、不安感が大きくなり自分自身がわからな

くなる、といった場面が多くなると思います。

自己肯定感が低くなってしまう時やつらい時は休んで自分自身が楽しいと感じること、他のことよりも不安を抱かないことをやってみてください。そして少しでも達成感を感じたり、うまくいったなと思うことがあったらぜひ自分を褒めてあげてください。

わたしは何かに挑戦するときに、自分が不安や心配と感じていることの8割は実際には起こらない、という考えを心のすみにおくことで色々なことへ挑戦するハードルが低くなりました。

相手に質問されてからすぐに自分の心で感じていることを伝えるのは難しいと思います。嫌だなあ、つらいなあと思うことがあったら一言でも二言でも紙に書いてみてください。落ち着いた時にその言葉を整理すると自己分析ができたり、相手に何をしたいかがわかりやすくなると思います。

わたし自身も、人に心配されることが苦手で抱え込んでしまい人への頼り方がわからなくなったり、相手に伝えようとしても言葉におこせない感情が多く涙が出てしまうときがありました。もしお子さんがうまく頼れなかったり、伝えられなくても責めずに見守ってあげてください。

(以上)

バイト先で久しぶりに会った時の笑顔が幸せそうで、充実した日々を送っていることが一目でわかりました。今回の取材を通して、後輩の役に立てると勇気を出して話しをしてくれたAさんに感謝を申し上げます。(大野 文)

相談対応プロジェクトの報告

須賀の寺子屋には相談対応プロジェクトがあります。このプロジェクトは、大野、鈴木裕理子、伊藤美千枝が担当しています。

寺子屋の保護者などからきた相談について、3人で共有し、どのように解決したらよいかを考えて意見交換をします。その上で、関係団体や行政などの機関を紹介しています。ご家族内の問題や不登校、ヤングケアラーなど保護者も子どもたちもいろいろな問題を抱えています。各ご家庭の問題は守秘義務があり、誰にでもお話できる内容ではありません。

月2回の寺子屋ですが、先生や親とは違う大人と関わり、いろいろな話をする中で子どもたちが少しでも元気に笑顔で過ごせる寺子屋であってほしいと思っています。(鈴木裕理子・伊藤美千枝)

「学習記録票」の書き方にご注意ください

右の欄は生徒の記録、生徒の様子を書いてください。例えば、体調や様子、最近の出来事、部活や好きな趣味、悩みや困り事等、生徒との会話の中で知った情報、気になった事は必ず記載してください。こちらの情報がとても大事になります。

生徒がその日に学習した内容は、左の欄に箇条書きで簡潔にまとめて記載してください。

港福祉まつり「福祉の学び」講座報告

9月16日に開催された港福祉まつりの「福祉の学び場」にて、須賀の寺子屋の活動について紹介させていただきました。地域の方の前は初めての事で少し緊張しました。

寺子屋活動中の写真や、子ども達、ボランティアの声も発表しました。皆さんとても興味を持って聞いて下さっているように思いました。「寺子屋ってこんな活動をしているんですね」という声や、学習支援の申し出など嬉しいこともありました。この活動を長く続けていくためには、地域の方、多くの方の力が必要だと感じました。学習支援をきっかけに、福祉という目でも子ども達を支えていけたらと思っています。(横田佐知子)



学習支援のヒント💡

小学生担当 竹原廣子さんからのヒント

小学5年生2人を担当しています。基本的には学校の宿題を優先しています。宿題のプリントを忘れてしまった場合は同じクラスの友達のものを使うこともあります。学習の用意が何も無い子どもには、こちらで事前に用意したプリントを使います。文章問題が苦手なので、算数は一緒に問題を読み、分かり易いよう図に直して説明します。子どもたちは個性があり、寺子屋に求めているものがそれぞれ違うので、勉強は無理強いせず、宿題の後はクロスワードや迷路など家庭ではあまりやらないもので楽しんでいます。

中学生担当 草島 豊さんからのヒント

支援学級在籍の生徒を担当しています。教科についてではないのですが、私が大切にしていることは、意識して一緒にいる時間を楽しむこと、喜ぶことです。今日会えたことを喜び、ひとつできたことを喜ぶ…。存在を喜ぶと言うと大げさですがささやかでも喜びを共有する人の存在は大切だと思うのです。もちろん、どう接し、どう指導すれば良いのか分からなくなることも多々あります。他の人があたりまえにできることがその人にとっては難しいということもあります。人それぞれ事情や特性があり、さらに他人に話したくないことや自分でも気づいていないことも。だから悩みつつ相談しつつ、私自身寺子屋が学びの場です。そんな意味でも寺子屋で過ごす時間はありがたいです。

須賀の寺子屋の活動の情報は以下でも紹介しています。

ホームページ <https://sukanoteragoya.com>

Facebook <https://m.facebook.com/people/>

本誌の掲載内容や写真データを無断で転写したり、SNS等へ投稿したりすることは固く禁じます。